



名古屋別院 お立ち寄り案内

—ちよつとよつてちよ—

「東門」ひがしもん

老朽化が著しく倒壊の恐れがあるため長い間通行できなかつた東門が、2016年7月、ご門徒の寄進により復元修復されました。

この東門は名古屋別院に現存する最古の木造建造物で、江戸時代の「尾張名所図会」にも記載されており、古くから別院に参拝される方や地域の方の通り道として利用されてきました。今後、登録文化財として申請予定です。別院にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

※時間帯により閉門いたします。



真宗大谷派名古屋別院 (東別院)

〒460-0016 名古屋市中区橋2-8-55
電話.052-321-9201 FAX.052-321-3184

お東ネット 検索

<http://www.ohigashi.net/>



2016.06.10000



お 盆

「お盆」は詳しくは、「盂蘭盆会」といい、これはインドの言葉で「逆さ吊り」という意味から来ています。「お盆」と「逆さ吊り」に一体何の関係があるのだと思われるかもしれませんがその由来が『盂蘭盆経』というお経の中に出てまいります。

その昔、お釈迦様の弟子の中で神通力（すべてのものを見通す力）が一番とされている目蓮尊者が、その力によって亡き母が餓鬼道（食べることも、飲むことも出来ず、決して満足することのない世界）に堕ち、逆さ吊りにされて苦しんでいることを知りました。そこで、どうしたら母親を救えるのか、お釈迦様に相談したところ、お釈迦様は「お前が多くの人に施しをすれば母親は救われる」と言われました。そこで、目蓮尊者はお釈迦様の教えにしたがい、夏の修行期間のあける時期に、多くの僧たちに飲食物をささげて供養したのです。すると、その功德によって母親は極楽に往生することができた、というのです。それが「お盆

には先祖の霊が帰ってくる」という日本古来からの思想と混ざり合い、今の「お盆」の風習になったといわれます。

それは一見、目蓮尊者が、苦しむ母親を供養し、救ったという形に受け取れます。しかし少し見方を変えれば、実は亡くなった母親が餓鬼道に堕ち、苦しむというその姿でもって目蓮尊者のこれからの生き方を照らしてくれた、とも受け取れるのではないのでしょうか。

弥陀の浄土に帰しぬれば

すなわち諸仏に帰するなり

一心をもちて一仏を

ほむるは無碍人をほむるなり

（『浄土和讃』『真宗聖典』四八二頁）

真宗門徒は亡くなった人を「霊」ではなく「諸仏」といただいてきました。ですから、仏様になられた「諸仏」に「迷わず、安らかに成仏してください」とお願いし手を合わ

せるのは、おかしな話になってしまいます。どういう私たちであっても無条件に「南無阿彌陀仏」を届けてくださる、そのはたらきが諸仏なのです。私たちから故人へ何かを差し向けるのではなく、亡くなった大切な人が諸仏となって、私たちのこれまでの生き方、これからの生き方を問い、そして「与えられた一生涯の意味を明らかにしてください」と願ってくださっているという事実を確かめるのが、真宗の仏事に込められた大切な願いではないかと思えます。

目蓮尊者の母親がその生きた姿、死にゆく姿、苦しむ姿でもってこれからを生きる息子の道を照らしたように、私たちがまた、亡くなった人からの願いを、ひとつ立ち止まり、受け取っていかねばならないように思います。

今年もまた、亡くなった方を「諸仏」として向き合う「お盆」がやってまいります。